

みずほマーケット・トピック(2024 年 6 月 28 日)

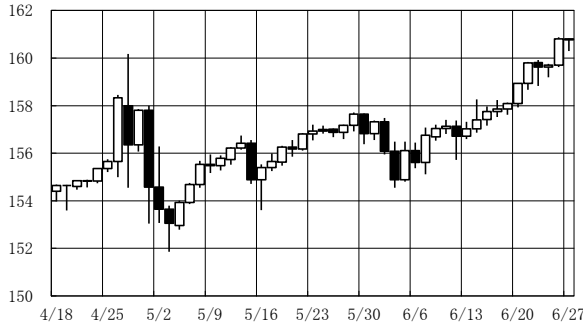
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

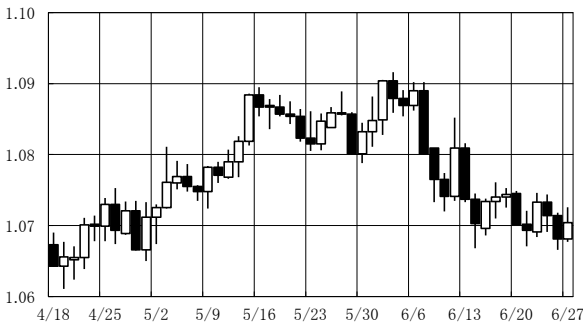
- 今週のドル/円は週後半に161円を突破し、約38年ぶりの高値圏まで上昇した。週初24日、159.91円でオープンしたドル/円はわずかに上伸も、節目の160円を前に更なる上値追いにはならず、159円台後半でじり安推移。海外時間は、政府・日銀による円買い介入警戒感からリスク回避の動きが加速し、瞬間的に週安値の158.75円まで急落。その後はグローバルな株高で円売り優勢となり、159円台後半を回復した。25日、ドル/円は高値警戒感がくすぶる中で、159円台半ばにじり安。海外時間は、米6月コンファレンスボード消費者信頼感など複数の米経済指標の良好な結果を受けた米金利上昇に合わせ、159円台後半に反発した。26日、ドル/円は159円台後半での小動きが継続。海外時間は、米金利上昇と共にじり高推移となり160円を突破。神田財務官による強めの円安牽制発言が見られる中でも続伸し、161円手前まで上値を伸ばした。27日、ドル/円は政府・日銀による円買い介入への警戒感が高まる中で、円金利上昇も材料視され、160円台前半に軟化。海外時間は、米経済指標の強弱入り混じる結果に上下動するも、円売り相場の中で160円台後半に値を戻し、ほぼ往って来いとなった。本日のドル/円は、仲値取引のタイミングで円が急落し、約38年ぶりの高値水準となる161円台で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは1.07を挟んで方向感なく推移した。週初24日、1.0688でオープンしたユーロ/ドルは、欧米株や独金利の上昇が支援材料となり、一時週高値の1.0746まで上昇した。25日、ユーロ/ドルは独金利低下に加え、複数の米経済指標の堅調な結果を受けた米金利上昇が重しとなり一時1.07を割り込むも、その後反発し1.07台を回復した。26日、ユーロ/ドルは米独金利差が拡大する中で、ECB高官のハト派な発言も嫌気され、一時週安値となる1.0666に下落した。27日、ユーロ/ドルは米経済指標の弱めな結果を受けた米金利低下が支援材料となり1.07台前半に上昇したが、引けにかけてはドルの買い戻しに押され、1.07ちょうど付近に値を下げた。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.07付近で取引されている。

		前週末	今 週				
		6/21(Fri)	6/24(Mon)	6/25(Tue)	6/26(Wed)	6/27(Thu)	
ドル/円	東京9:00	158.95	159.91	159.71	159.70	160.60	
	High	159.87	159.94	159.75	160.88	160.82	
	Low	158.67	158.75	159.18	159.63	160.30	
	NY 17:00	159.86	159.57	159.67	160.83	160.77	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0706	1.0688	1.0733	1.0708	1.0680	
	High	1.0720	1.0746	1.0744	1.0718	1.0726	
	Low	1.0671	1.0684	1.0691	1.0666	1.0677	
	NY 17:00	1.0694	1.0735	1.0715	1.0681	1.0704	
ユーロ/円	東京9:00	170.16	170.78	171.36	170.98	171.51	
	High	170.89	171.45	171.36	171.79	172.15	
	Low	169.34	170.34	170.71	170.89	171.39	
	NY 17:00	170.89	171.34	171.04	171.69	172.09	
日経平均株価		38,596.47	38,804.65	39,173.15	39,667.07	39,341.54	
TOPIX		2,724.69	2,740.19	2,787.37	2,802.95	2,793.70	
NYダウ工業株30種平均		39,150.33	39,411.21	39,112.16	39,127.80	39,164.06	
NASDAQ		17,689.36	17,496.82	17,717.65	17,805.16	17,858.68	
日本10年債		0.97%	0.99%	1.00%	1.02%	1.07%	
米国10年債		4.26%	4.23%	4.25%	4.33%	4.29%	
原油価格(WTI)		80.73	81.63	80.83	80.90	81.74	
金(NY)		2,331.20	2,344.40	2,330.80	2,313.20	2,336.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、5日(金)に6月雇用統計が公表予定となっている。前回5月の結果は、非農業部門雇用者数が+27.2万人(前月比、以下同様)と、4月(修正後:+16.5万人)および市場予想(+18.0万人)を上回った。また、失業率は4.0%となり、市場予想および4月の3.9%を上回った。加えて、平均時給は+0.4%と市場予想の+0.3%および4月の+0.2%から上振れた。事業所調査と家計調査の間で強弱の乖離が目立つことは注意を要するが、FRBが利下げの条件として挙げる「労働市場の急激な冷え込み」には程遠く、やはり早晩の利下げ開始は見込みがたい。なお、6月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、非農業部門雇用者数を+18.8万人、失業率を4.0%、平均時給を+0.3%と見込んでいる。

そのほか、3日(水)にはFOMC議事要旨(6月会合分)が発表予定。会合では、市場予想通り、FF金利の誘導目標を5.25～5.50%で据え置いた。声明文では、物価目標への進展に関する文言が、「進展が見られていない」から「進展が見られた」に変更された。4、5月分の物価統計の下振れを受けたものと推察される。もっとも、パウエルFRB議長は物価統計に関し「利下げを正当化するほどではない」としており、利下げへ向けてはより一層のインフレの減速、あるいは労働市場の急激な軟化が必要、との認識を示している。更新されたドットチャートでは、年内の利下げ予測(中央値)に関し前回の3回から1回に縮小されたほか、中立金利を示す長期平均も上方修正されている。この背景にあるとされる、米国経済の潜在成長率の高まりなどに関するFRB高官の認識も、議事要旨で確認したい。

	本 邦	海 外
6月28日(金)	・5月失業率/有効求人倍率 ・6月東京消費者物価指数 ・5月鉱工業生産(速報)	・米5月個人所得/支出 ・米5月個人消費支出デフレーター ・米6月ミシガン大学消費者マインド(確報)
7月1日(月)	・4～6月期日銀短観 ・6月製造業PMI(確報) ・6月消費者態度指数	・ユーロ圏6月製造業PMI(確報) ・米6月ISM製造業景気指数 ・ECBフォーラム(3日まで)
2日(火)	—————	・ユーロ圏6月消費者物価指数(速報) ・ユーロ圏5月失業率 ・米5月JOLT求人件数
3日(水)	・6月非製造業PMI(確報)	・ユーロ圏6月非製造業PMI(確報) ・ユーロ圏5月生産者物価指数 ・米6月ISM非製造業景気指数 ・米FOMC議事要旨(6月会合分)
4日(木)	—————	・独5月製造業受注 ・ユーロ圏ECB政策理事会議事要旨(6月会合分)
5日(金)	・5月家計支出 ・5月景気動向指数(速報)	・独5月鉱工業生産 ・ユーロ圏5月小売売上高 ・米6月雇用統計

【当面の主要行事日程(2024年7月～)】

ECB政策理事会(7月18日、9月12日、10月17日)

日銀金融政策決定会合(7月30～31日、9月19～20日、10月30～31日)

FOMC(7月30～31日、9月17～18日、11月6～7日)

ジャクソンホール経済シンポジウム(8月22～24日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年6月27日	家計金融資産の現状～外貨比率は最高値更新へ～
2024年6月25日	「隠れ円安」への正しい理解～実効円安を見る努力を～
2024年6月24日	為替政策報告書～日本のリスト入りは形式上の不備～
2024年6月21日	週末版(欧州委員会による財政是正措置勧告～フランス極右政党 vs. 欧州委員会～)
2024年6月19日	本邦5月貿易収支を受けて～思ったよりも減らない赤字～
2024年6月18日	久しぶりの欧州政治騒動～27年まで波乱無しが基本に～
2024年6月17日	日銀金融政策決定会合を終えて～上がる期待値～
2024年6月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年5月分)
	週末版
2024年6月13日	FOMCを終えて～中立金利上昇と為替見通し～
2024年6月12日	既に前年実績を超えてしまった「家計の円売り」
2024年6月11日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月10日	円相場の需給環境について～4月までの総括～
2024年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面入りへ～)
2024年6月5日	証券投資は巻き返すか？～収益率で考える未来～
2024年6月4日	敢えて考える対内直接投資促進の「負の側面」
2024年6月3日	強含む経済指標に囲まれるECB～ユーロ相場の考え方～
2024年5月31日	週末版
2024年5月29日	虚しく響く「33年連続、世界最大の対外純資産国」の肩書き
2024年5月28日	「This time is different」は利上げ予告か～内田講演～
2024年5月27日	加速したユーロ圏妥結賃金とECBブログの言い分
2024年5月24日	週末版
2024年5月23日	金利差縮小でも円安修正は進まず～議事要旨を受けて～
2024年5月22日	「もしとら」で注目される欧州の立ち回り
2024年5月21日	ユーロ圏経済の近況～「底入れ」という不都合な真実～
2024年5月20日	垣間見えたECBの「次の一手」～ECB理事インタビュー～
2024年5月17日	週末版(色濃くなるスタグフレーションの様相～窮屈になる日銀の政策環境～)
2024年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年4月分)
	円安抑止の処方箋～即効性と持続性のトレードオフ～
2024年5月14日	通貨政策化する金融政策～定着する「為替との戦い」～
2024年5月13日	1～3月期国際収支統計～需給改善を確認～
2024年5月10日	週末版
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか？～円安と債務～
2024年5月8日	FRBの「次の一手」と円相場の予想パスについて
2024年5月7日	円安抑止の処方箋～NISA国内投資枠～
2024年5月2日	週末版(レバトリ減税について～「5%の摩擦」に拘るべき～)
2024年4月30日	日銀が回避した為替との戦い、今後のリスク
2024年4月26日	週末版
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない？～
2024年4月23日	世界経済の下方シフトの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高是正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～またも「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年3月分)
	週末版(ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～)
2024年4月11日	「でこぼこ道」が「再燃の入口」か～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ベースだった「家計の円売り」～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直接投のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩歩安だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか？
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか？
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年末資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目前～
2024年3月22日	週末版(FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場の「押し目」)
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「噂で売って、事実でも売り」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版(「家計の円売り」は3月も続くのか？～試される個人投資家の芯～)
2024年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年2月分)
2024年3月13日	春闘と円高リスク～「異例の買上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～CFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～)
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～妥結賃金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版(マイナス金利解除と円相場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～)
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか？～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分)
	本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～滲む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキープフェーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んで円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い